

(仮称)福島北風力発電事業  
環境影響評価準備書

令和4年12月

HSE株式会社

---

# 内 容

1.事業概要について

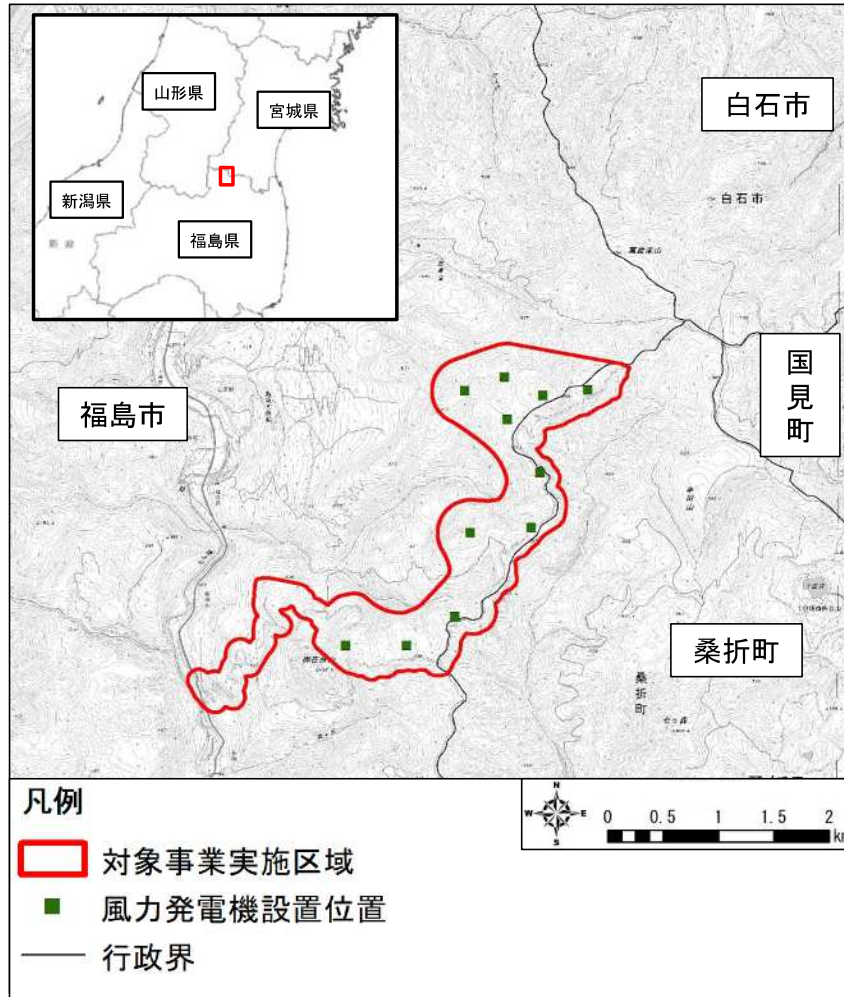
2.環境影響評価準備書について

---

# 1.事業概要について

# 1.事業概要について

## 対象事業実施区域の位置



### ■ 事業名称:

(仮称)福島北風力発電事業

### ■ 発電所出力:

46,200kW

### ■ 風力発電機の基数:

4,200kW × 11基

### ■ 対象事業実施区域の面積:

約353.0ha (改変面積 約21.0ha)

### ■ 事業用地:

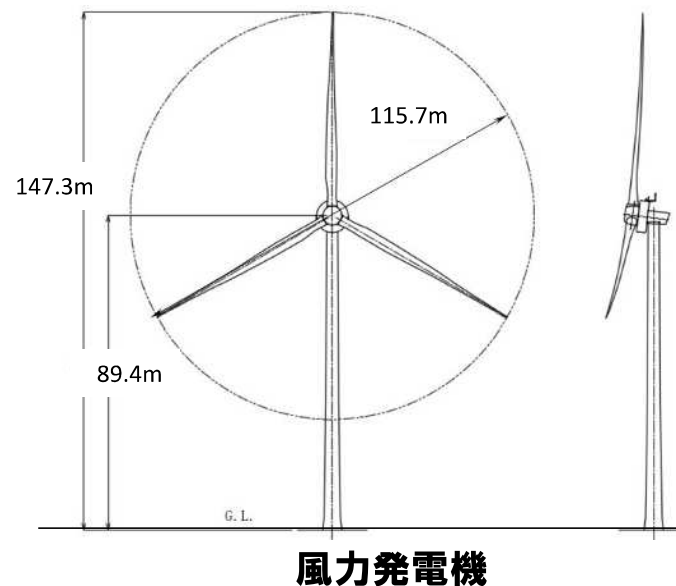
国有林等を活用

(環境影響評価手続と並行して、  
森林管理署や関係機関との協議を  
進めております。)

# 1.事業概要について

## ■風力発電機の概要

項目	計画
定格出力 (定格運転時の出力)	4,200kW
風力発電機の基数	11基
ブレード枚数	3枚
ローター直径 (ブレードの回転直径)	115.7m
ハブ高さ (ブレードの中心の高さ)	89.4m
地上高さ	147.3m



# 1.事業概要について

## ■工事期間と工事工程の概要(予定)

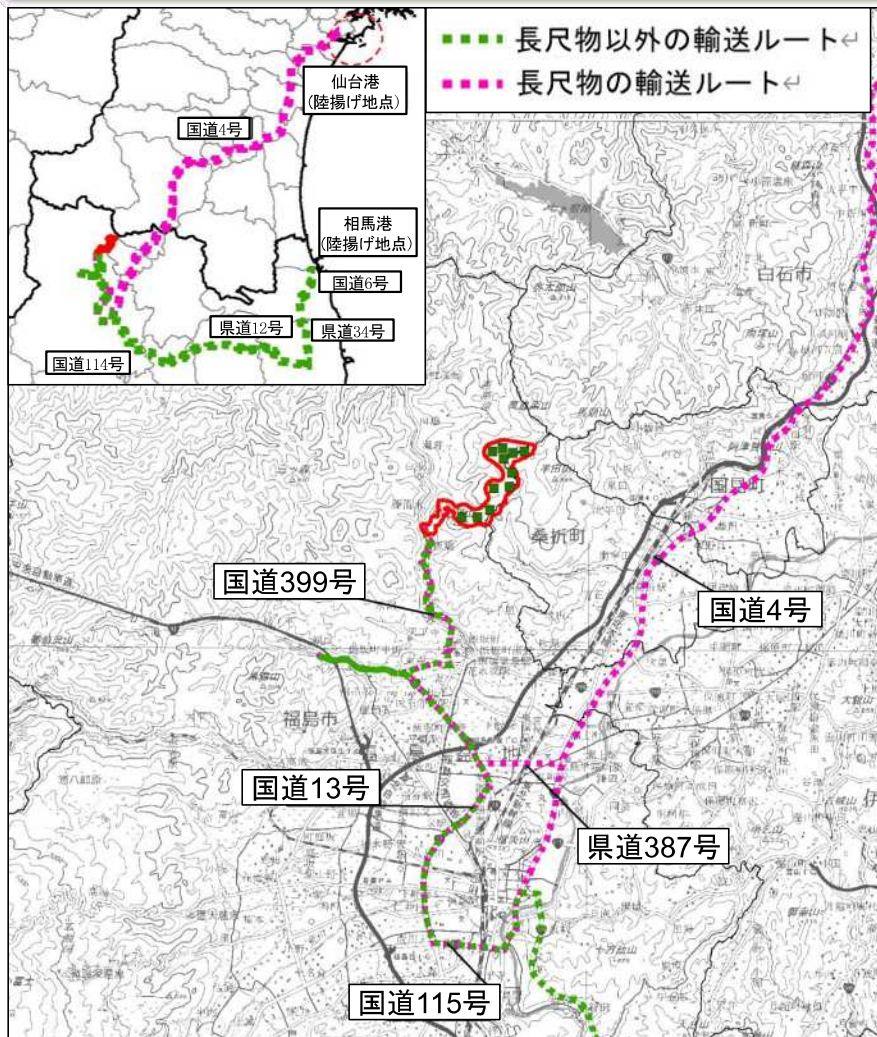
工事は、令和6年4月の着工を目指しており、工期はおよそ36ヶ月間を想定しています。工事の実施にあたっては、森林管理署や地元住民の方々と協議しながら進めます。

年	2024年												2025年												2026年												2027年			
	令和6年												令和7年												令和8年												令和9年			
工事内容	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	月数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
造成・基礎工事																																								
風力発電機据付工事																																								
電気工事・試験																																								

※冬季(12月～2月)工事については、降雪を考慮して休工予定としています。  
 ※上記の工事工程は現時点の想定であり、今後変更する可能性があります。

# 1.事業概要について

## ■風力発電機の輸送計画



### 【長尺物の輸送ルート】

風力発電機のブレード等の長尺物は、仙台港まで海上輸送し、陸揚げ後は国道4号等を走行し、対象事業実施区域まで輸送する計画です。

### 【長尺物以外の輸送ルート】

風力発電機のタワー等の長尺物以外は、相馬港まで海上輸送し、陸揚げ後は国道6号、県道12号、国道13号等を走行し、対象事業実施区域まで輸送する計画です。

# 1.事業概要について

## ■工事関係車両の走行ルート



### 【走行する車の種類】

風力発電所の建設にあたって、風力発電機の基礎工事に伴うコンクリートミキサー車など、工事関係車両が走行する計画です。

### 【走行するルート】

工事関係車両の主要な走行ルートとして、主に国道399号、国道13号等を走行する計画です。

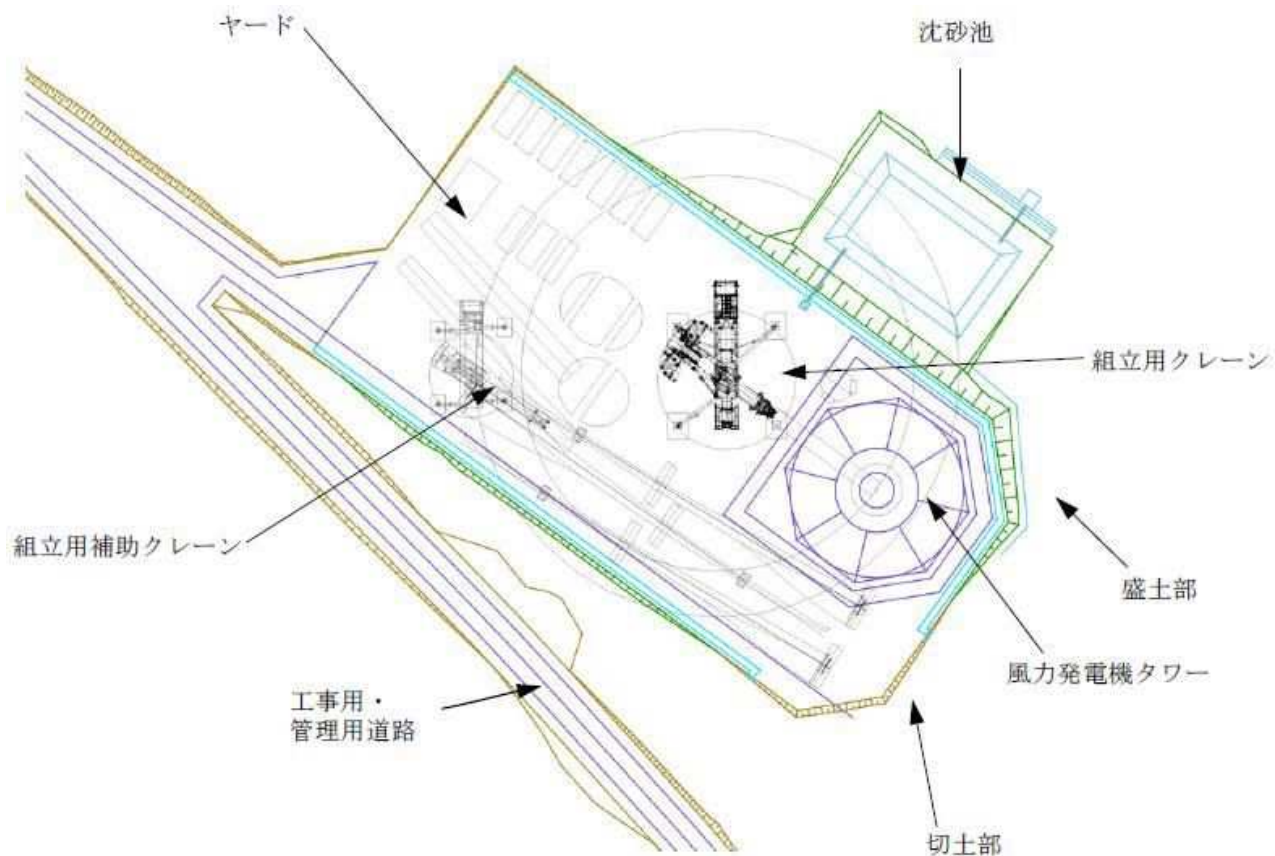


# 1.事業概要について

## ■風車ヤード模式図

各風車ヤードの改変面積は、平均約4,100m<sup>2</sup>です。

建設後は、各ヤードにつき平均で約1,300m<sup>2</sup>を緑化します。



---

## 2.環境影響評価準備書について

---

## 2.1 環境影響評価の項目の選定

## 2.1 環境影響評価の項目の選定

### ■ 環境影響評価の項目の選定(1/2)

環境要素の区分		影響要因の区分		工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
				工事中用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形改変及び施設の存在	施設の稼働
大気環境	騒音	騒音	○	○				○
	振動	振動	○					
	その他	超低周波音						○
水環境	水質	水の濁り			○			
	底質	有害物質						
その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				○		
		その他	風車の影					○
			電波障害					○

注)1.  :「発電所アセス省令」の「風力発電所別表第6」の参考項目

2. 「○」 : 選定した項目

〔非選定理由〕

○建設機械の稼働に係る水の濁り・有害物質 ⇒水域の底質をかく乱する工事を行わないため非選定とした。

## 2.1 環境影響評価の項目の選定

### ■ 環境影響評価の項目の選定(2/2)

環境要素の区分		影響要因の区分	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用	
			工事用資材等の搬出入	建設機械の稼働	造成等の施工による一時的な影響	地形変化及び施設の有存在	施設の稼働
動物	重要な種及び注目すべき生息地			○	○		
	海域に生息する動物						
植物	重要な種及び重要な群落			○	○		
	海域に生育する植物						
生態系	地域を特徴づける生態系			○	○		
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				○		
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○			○		
廃棄物等	産業廃棄物			○			
	残土			○			
放射線の量	放射線の量	○	○	○			

- 注)1.  :「発電所アセス省令」の「風力発電所別表第6」の参考項目  
 :同省令の「別表第13」に示す放射性物質に係る参考項目  
 2. 「○」 :選定した項目

〔非選定理由〕

○海域に生息・生育する動植物

⇒海域が含まれないため、非選定とした。

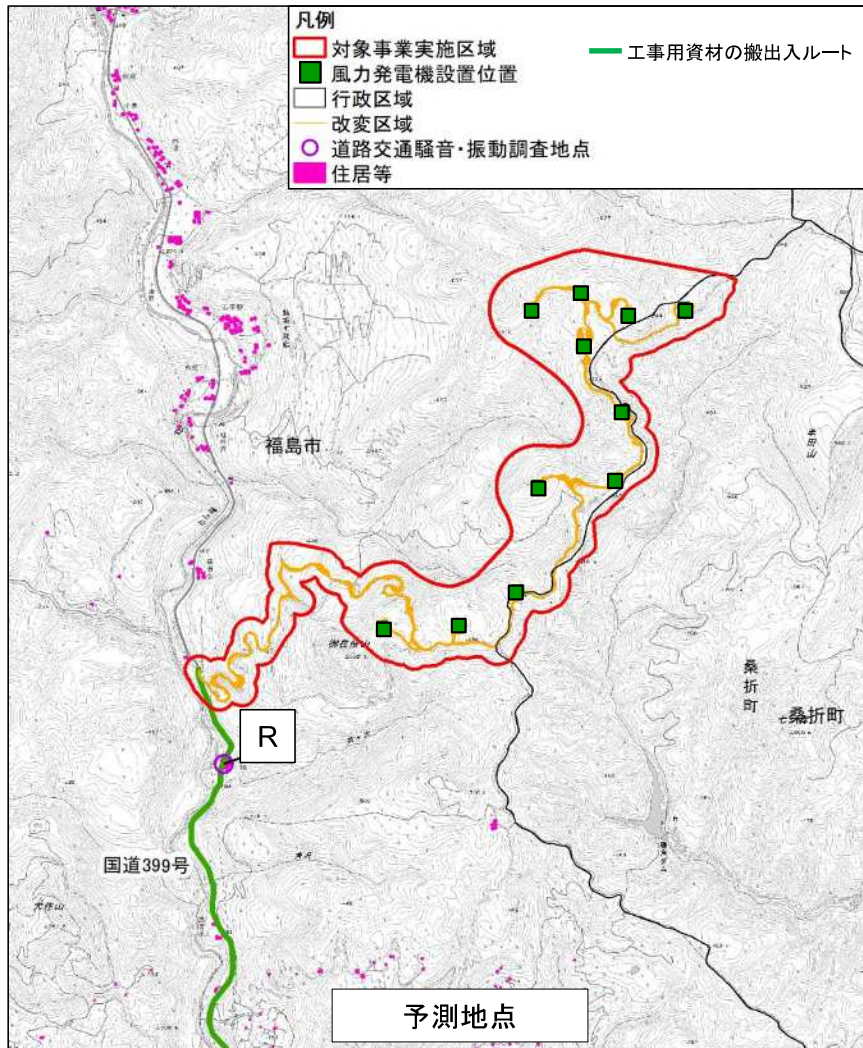
---

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ① 騒音（工事用資材の搬出入）

#### 【予測・評価の結果】



予測地点	曜日	音圧レベル(デシベル)		基準値※ (参考値)
		現況値	予測値	
R	平日	59	63	70
	土曜	61	64	

※環境基準の類型指定はされていないが、参考値として幹線交通を担う道路に近接する空間の値を示した。

- ・工事用資材の搬出入に伴う騒音の予測結果は、環境基準値以下です。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ① 騒音（工事用資材の搬出入）

#### 【環境保全措置】

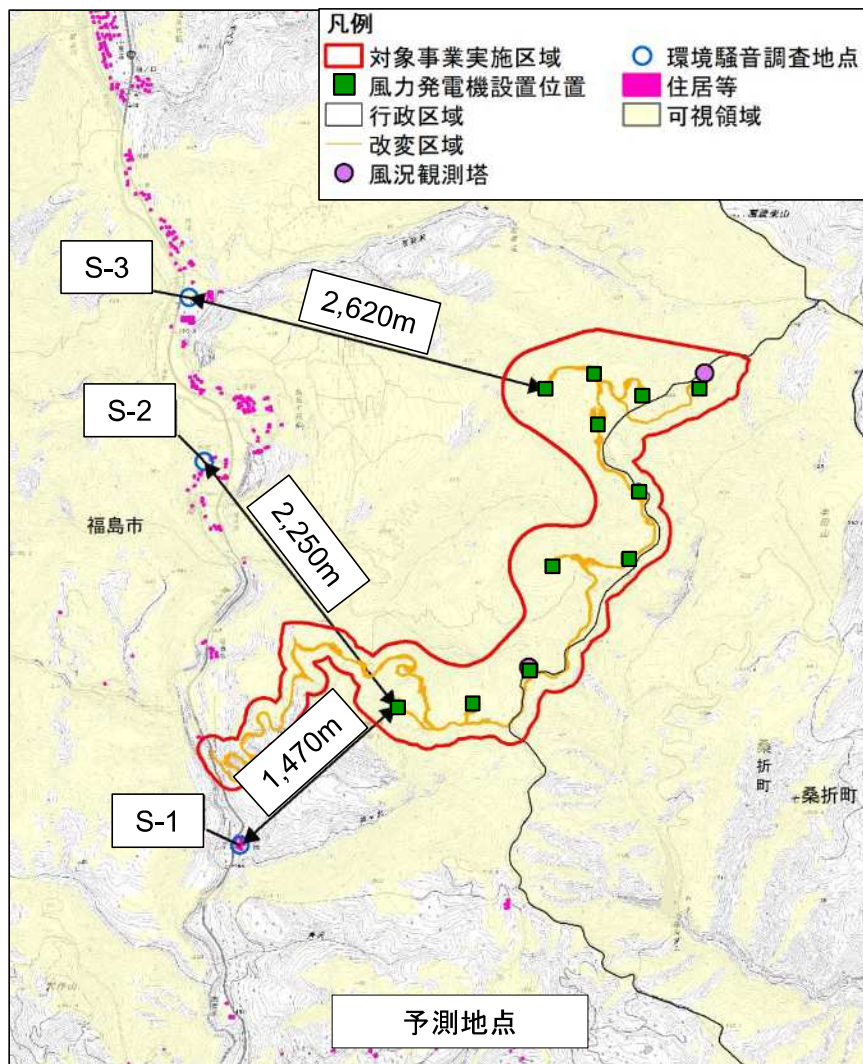
以下の環境保全措置を講じ、影響の低減に努めます。

環境保全措置	効果
工事用資材等の搬出入車両の適正運行及び作業の効率化	走行台数の削減
工事関係者の通勤車両については、乗り合いを促進	走行台数の削減
ダンプトラックとコンクリートポンプ車・ミキサー車の同時稼働を極力避ける	走行台数の削減
急発進、急加速の禁止やアイドリングストップ等のエコドライブを徹底	発生する音の低減
適切な点検、整備により、工事用資材等の搬出入車両の性能維持	発生する音の低減
工事中は定期的に会議等を行い、上記の環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底	環境保全措置の確実な実施



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ② 騒音（建設機械の稼働）



### 【予測・評価の結果】

#### 春季の予測結果

予測地点	騒音レベル(デシベル)			基準値※ (参考値)
	現況値	予測値	増加分	
S-1	44	48	4	55
S-2	44	47	3	
S-3	43	45	2	

#### 夏季の予測結果

予測地点	騒音レベル(デシベル)			基準値※ (参考値)
	現況値	予測値	増加分	
S-1	62	62	0	55
S-2	66	66	0	
S-3	57	57	0	

#### 秋季の予測結果

予測地点	騒音レベル(デシベル)			基準値※ (参考値)
	現況値	予測値	増加分	
S-1	36	46	10	55
S-2	40	45	5	
S-3	39	43	4	

※環境基準の類型指定はされていないが、参考値として一般地域のB類型の屋間の環境基準を当てはめた。

建設機械の稼働に伴う騒音の予測結果は夏季に基準値超過しますが、現況値が既に基準値超過しており、現況から増加分はデシベルです。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ② 騒音（建設機械の稼働）

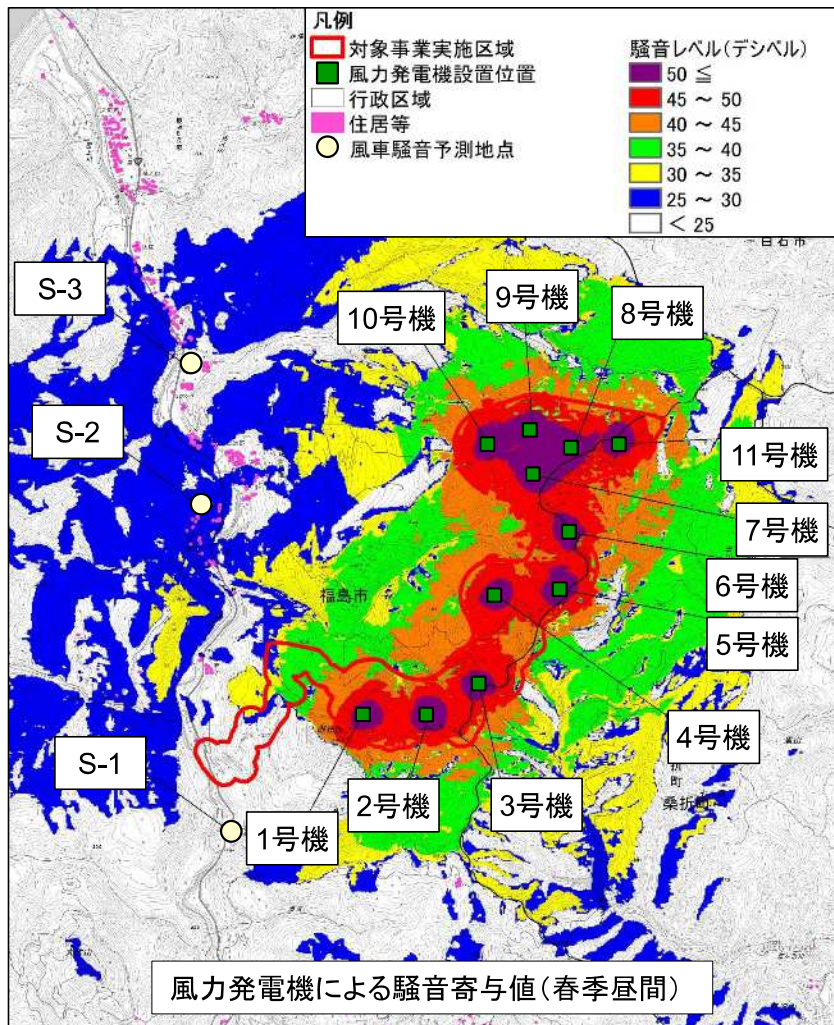
#### 【環境保全措置】

以下の環境保全措置を講じ、影響の低減に努めます。

環境保全措置	効果
建設機械は、可能な限り低騒音型・低振動型を使用	発生する音の低減
建設機械の適正配置及び作業の効率化	建設機械の稼働台数の削減
工事工程の調整等により工事作業の平準化	建設機械の集中稼働を避ける
基礎工事に伴うコンクリートミキサー車及びコンクリートポンプ車と掘削工事に伴うダンプトラックの同時稼働を極力避ける	建設機械の集中稼働を避ける
作業待機時におけるアイドリングストップを徹底	発生する音の低減
適切な点検、整備により建設機械等の性能維持	発生する音の低減
工事中は定期的に会議等を行い、上記の環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底	環境保全措置の確実な実施

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ③ 騒音（施設の稼働）



予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	春季	昼間	42	42	0	47
S-2			41	41	0	46
S-3			41	41	0	46

予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	春季	夜間	41	41	0	46
S-2			40	40	0	45
S-3			39	39	0	44

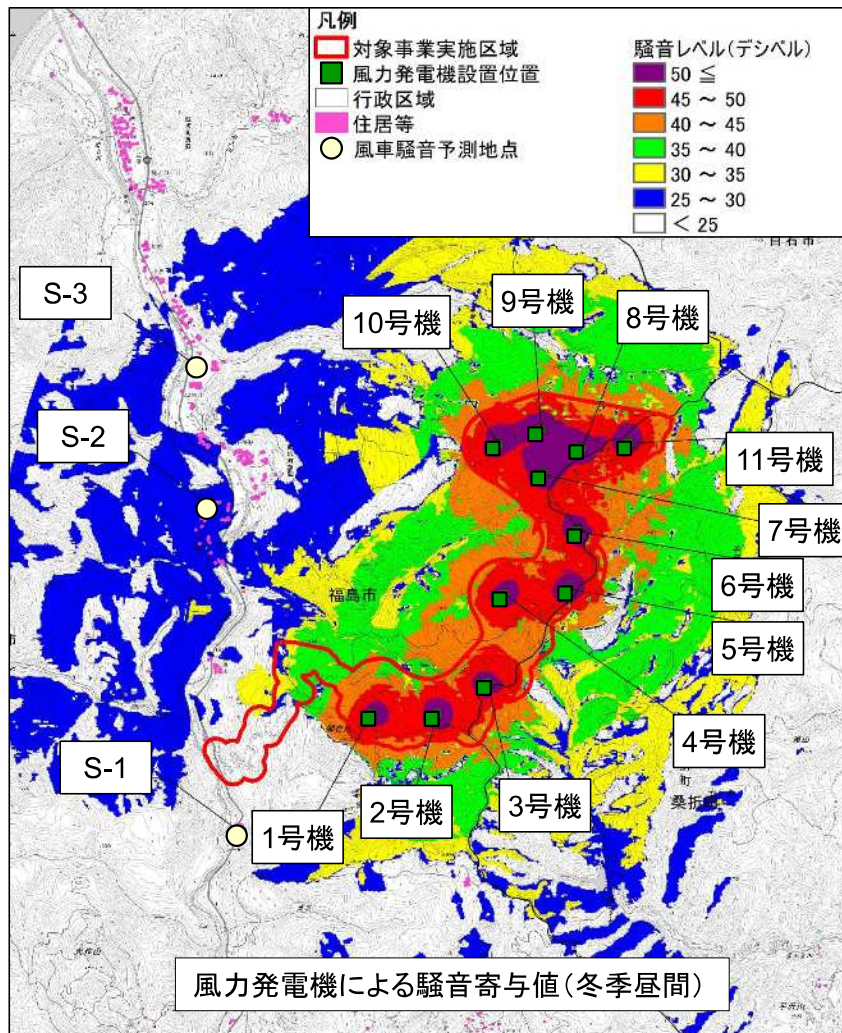
予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	夏季	昼間	61	61	0	66
S-2			65	65	0	70
S-3			56	56	0	61

予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	夏季	夜間	48	48	0	53
S-2			49	49	0	54
S-3			45	45	0	50

※【指針値】 残留騒音が35デシベル以上のとき、指針値は残留騒音+5デシベル  
 残留騒音が30~34デシベルのとき、指針値は40デシベル  
 残留騒音が29デシベル以下のとき、指針値は35デシベル

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ③ 騒音（施設の稼働）



予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	秋季	昼間	35	35	0	40
S-2			39	39	0	44
S-3			39	39	0	44

予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	秋季	夜間	32	32	0	40
S-2			36	36	0	41
S-3			36	36	0	41

予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	冬季	昼間	36	36	0	41
S-2			34	35	1	40
S-3			33	33	0	40

予測地点	調査時期	時間区分	騒音レベル(デシベル)			指針値*
			残留騒音(現況値)	予測値	増加分	
S-1	冬季	夜間	33	33	0	40
S-2			31	32	1	40
S-3			31	31	0	40

※【指針値】 残留騒音が35デシベル以上のとき、指針値は残留騒音+5デシベル  
 残留騒音が30~34デシベルのとき、指針値は40デシベル  
 残留騒音が29デシベル以下のとき、指針値は35デシベル

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ③ 騒音（施設の稼働）

#### 【環境保全措置】

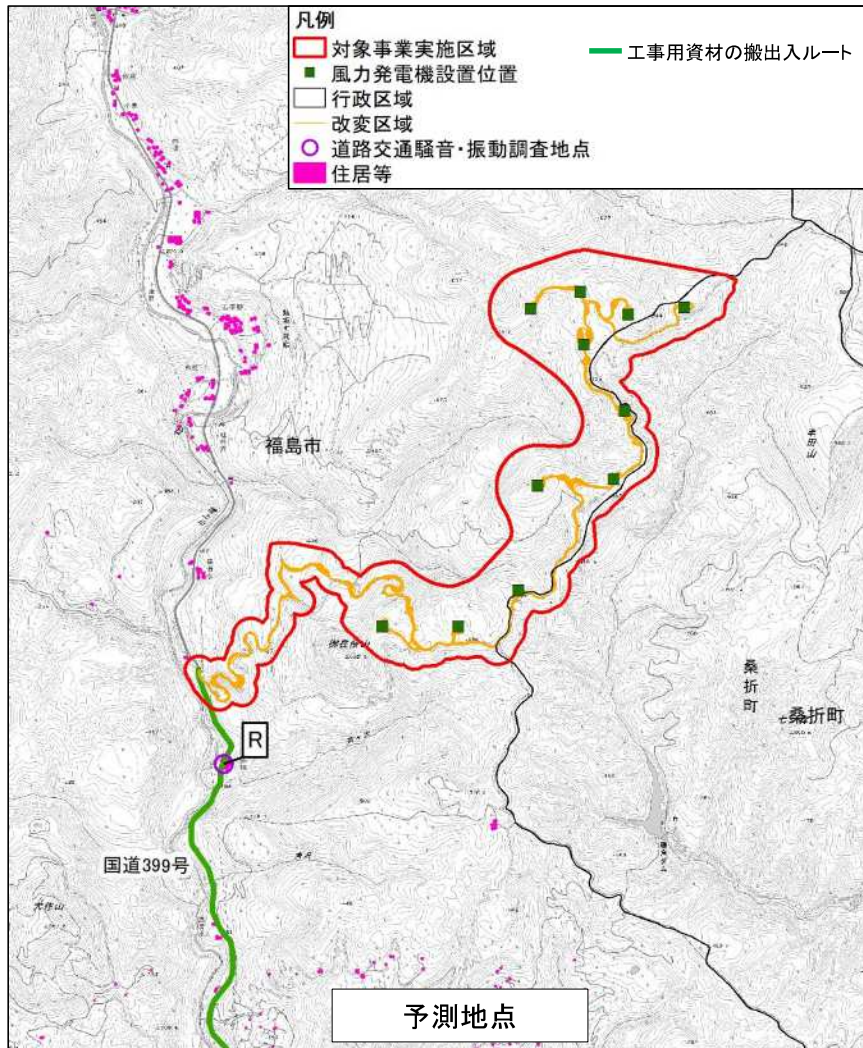
以下の環境保全措置を講じ、影響の低減に努めます。

環境保全措置	効果
風力発電機の配置位置は、可能な限り住居等から離れた場所を選定	離隔の確保
風力発電機の適切な点検、整備を実施し、性能維持	発生する音の低減

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ④ 振動（工事用資材の搬出入）

#### 【予測・評価の結果】



予測地点	曜日	振動レベル(デシベル)			要請限度※ (参考値)
		現況値	予測値	増加分	
R	平日	26	34	8	65
	土曜	29	39	10	

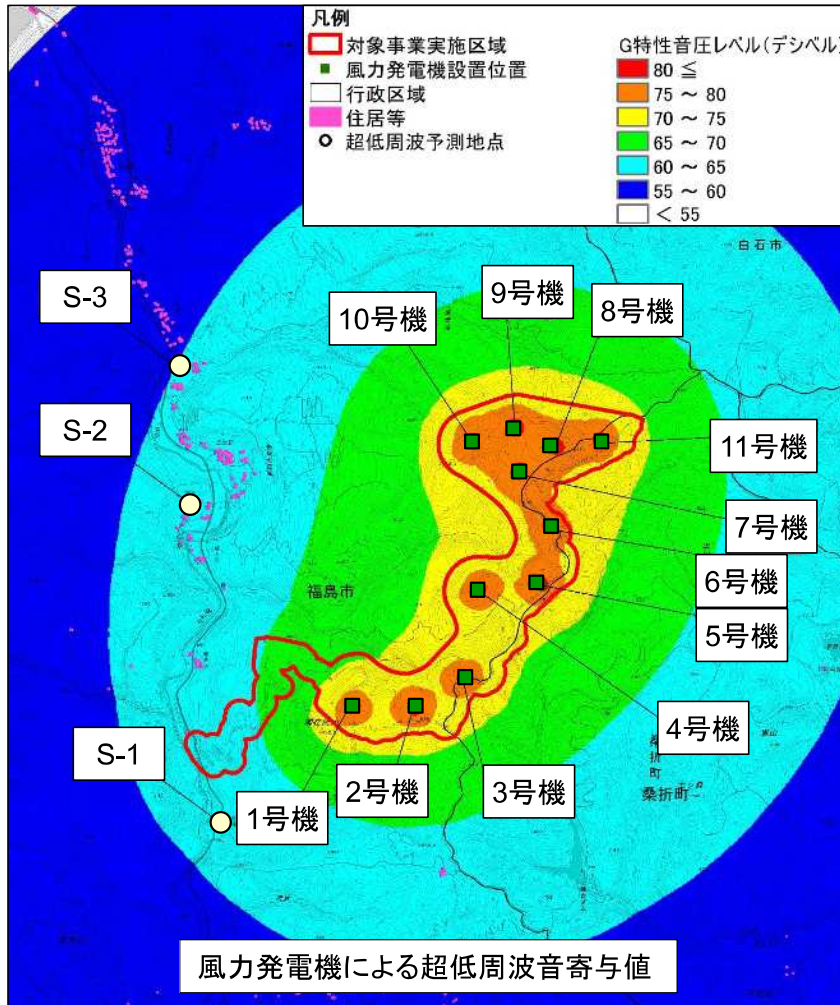
※振動規制法に基づく規制地域の指定はされていないが、参考値として第1種区域の要請限度を当てはめた。

- ・工事用資材の搬出入に伴う振動の予測結果は、要請限度以下です。
- ・工事用資材等の搬出入車両の適正運行や作業の効率化により走行台数の削減を図るなど、影響の低減に努めます。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑤超低周波音（施設の稼働）

#### 【予測・評価の結果】



予測地点	時間区分	G特性音圧レベル(デシベル)			参考値※
		現況値	予測値	増加分	
S-1	昼間	56	62	6	100
	夜間	46	61	15	
S-2	昼間	56	62	6	
	夜間	46	61	15	
S-3	昼間	58	62	4	
	夜間	46	60	14	

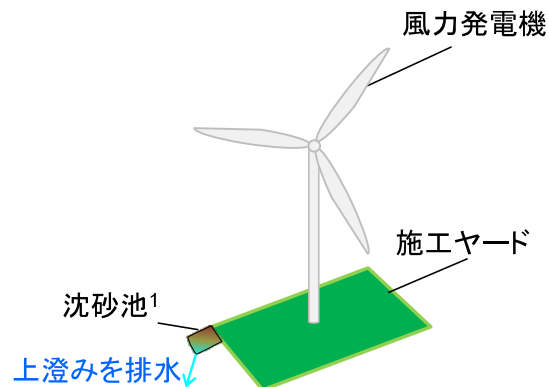
※【参考値】  
超低周波音を感じる最小音圧レベル(ISO-7196)

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑥ 水の濁り（造成等の施工による一時的な影響）

#### 【濁水の排水計画】

- ・風力発電機の施工ヤードに沈砂池を設置し、工事中の濁水の流出を防止する計画です。



#### 【予測・評価の結果】

- ・土壌の沈降特性等を踏まえて予測した結果、沈砂池からの排水中の土砂は、直近の河川や沢まで到達しないと予測します。



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑥ 水の濁り（造成等の施工による一時的な影響）

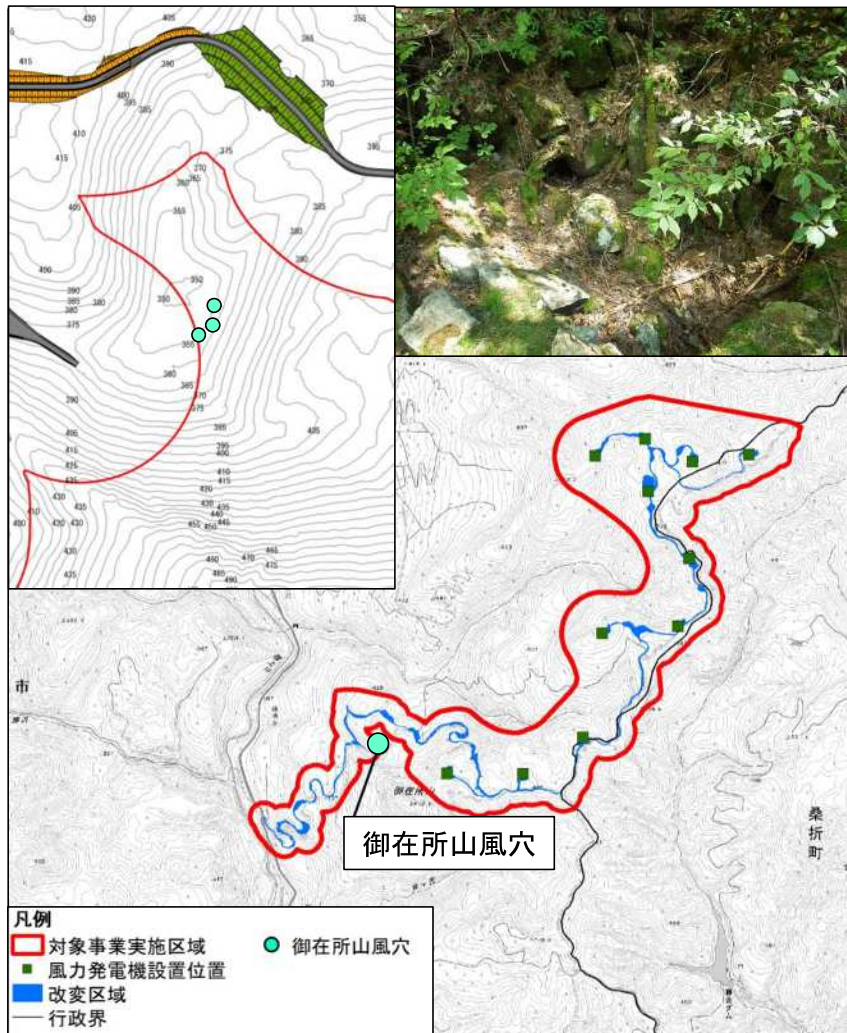
#### 【環境保全措置】

以下の環境保全措置を講じ、影響の低減に努めます。

環境保全措置	効果
樹木伐採や土地改変の最小化	濁水の発生抑制
造成箇所における土砂流出防止柵や沈砂池等の設置	濁水の流出防止
造成工事における濁水対策工の先行実施	濁水の発生抑制
沈砂池の定期的な管理	濁水の流出防止
造成裸地の速やかな転圧、砕石敷設	濁水の発生抑制
工事用道路における側溝、集水柵、フン籠の設置	濁水の流出防止
工事中は定期的に会議等を行い、上記の環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底	環境保全措置の確実な実施

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑦ 地形及び地質（地形改変及び施設の存在）

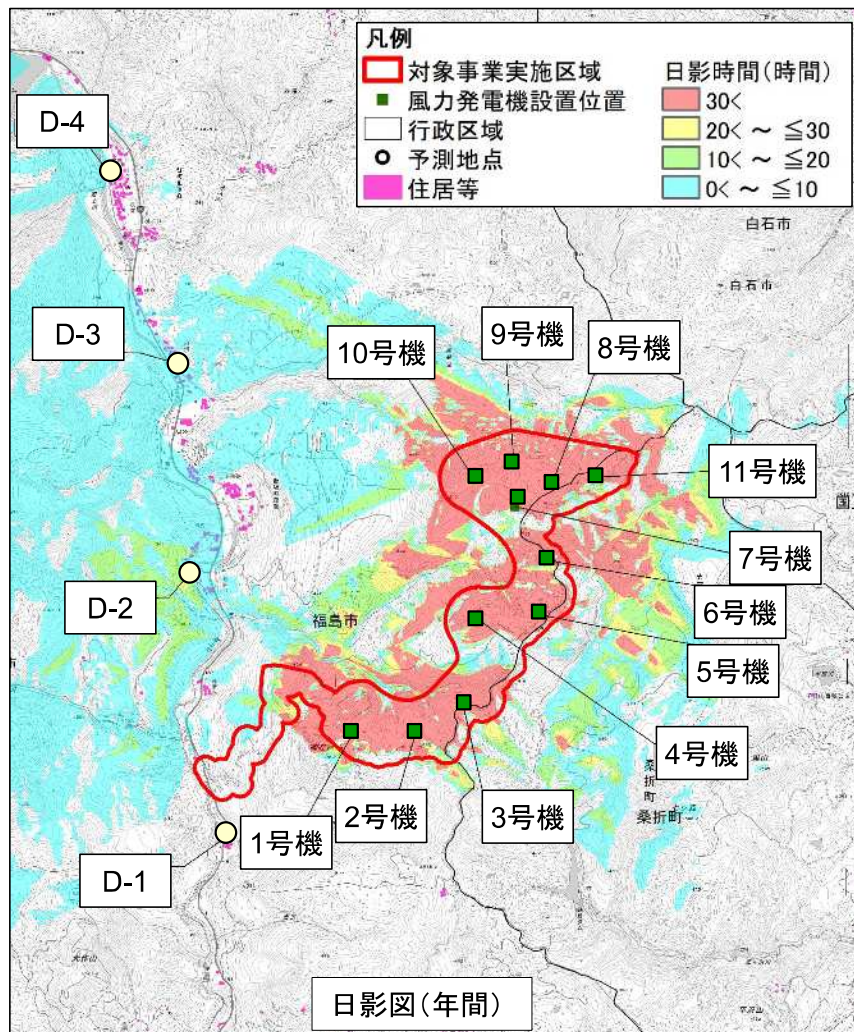


#### 【予測・評価の結果】

- 重要な地形(御在所山風穴)への直接的、間接的な改変を避けた計画としているため、影響はないと予測します。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑧ 風車の影（施設の稼働）



#### 【予測・評価の結果】

予測地点	実際の気象条件を考慮しない	
	年間	日最大
D-1	0分	0分
D-2	14時間37分	12分
D-3	3時間25分	8分
D-4	7分	0分

#### 【参考値】

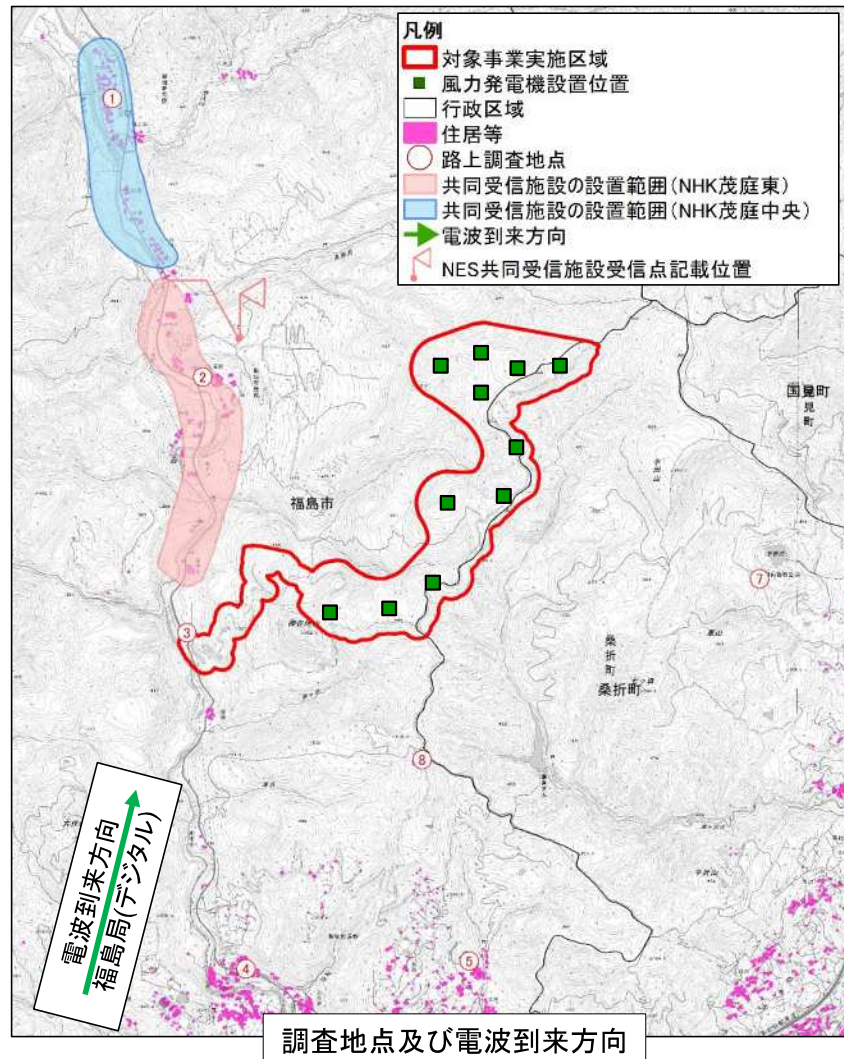
実際の気象条件を考慮しない場合で、年間30時間かつ1日30分間を超えないこと。

\*国内に基準等がないため、ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州のガイドラインを参考にした。

風車の影の予測結果は、全ての予測地点で参考値以下です。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑨ 電波障害（施設の稼働）



#### 【予測・評価の結果】

- 電波到来方向や風力発電機の位置関係等より、遮蔽障害、フラッター障害及び反射障害のいずれも発生しないものと予測します。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑩ 動物【調査の結果】

分類群	確認種数	重要な種
哺乳類	26種	7種 ヒメホオヒゲコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、カモシカ等
鳥類	122種	29種 アオバト、フクロウ、アカショウビン、ヤマセミ、ハヤブサ、サンコウチョウ等
爬虫類	6種	3種 ヒガシニホトカゲ、ジムグリ、ニホンマムシ
両生類	8種	6種 トウホクサンショウウオ、バンダイハコネサンショウウオ、タゴガエル、カジカガエル等
昆虫類	946種	3種 ホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種、ケブカツヤオオアリ
魚類	10種	6種 スナヤツメ類、トシヨウ類、ギバチ、アメマス類、サクラマス(ヤマメ)、カジカ
底生動物	200種	4種 モノアラガイ、ババアメンボ、コオナガミズスマシ、ゲンジボタル



クマタカ



トウホクサンショウウオ



ホシチャバネセセリ



カジカ

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑩ 動物

#### 【予測・評価の結果】

区分	分類群	「影響がない」または「影響は小さい」と予測された種 <sup>※</sup>	「影響を受ける可能性がある」と予測された種
動物の重要な種	哺乳類	7種 ヒメホオビゲコウモリ、ウサギコウモリ、テングコウモリ、カモシカ等	—
	鳥類	29種 アオバト、フクロウ、アカショウビン、ヤマセミ、ハヤブサ、サンコウチョウ等	—
	爬虫類	3種 ヒガシニホトカゲ、ジムグリ、ニホンマムシ	—
	両生類	6種 トウホクサンショウウオ、バンダイハコネサンショウウオ、カジカガエル等	—
	昆虫類	3種 ホシチャバネセセリ、ケブカツヤオオアリ等	—
	魚類	6種 スナヤツメ類、トシヨウ類、ギバチ、サクラマス(ヤマメ)、カジカ	—
	底生動物	4種 モノアラガイ、ババアメンボ、コオナガミススマシ、ゲンジボタル	—

※生息環境の改変面積が小さい、移動経路が確保されている、また鳥類については衝突確率が小さいこと等から、「影響がない」または「影響は小さい」と予測します。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑩ 動物

#### 【事後調査】

区分	種名等	影響	事後調査	影響が著しい 場合の措置
動物の 重要な種	コウモリ類 鳥類	風力発電機のブレードの回転による移動経路の阻害や衝突の影響は小さいと予測されたが、予測には不確実性が伴うため、事後調査が必要	内容: 衝突による死骸の探索 期間: 供用後1年間	必要に応じて適切な措置を講じる

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑪ 植物

#### 【調査の結果】

分類群		種類	重要な種	
シダ植物		59	19種: チョウセンゴミシ、ヒメサユリ、ギンラン、シロテンマ、アケボノシュスラン、ジガバチソウ、ノビネチドリ、ジンバイソウ、シラネアオイ等	
種子植物	裸子植物	8		
	被子植物	単子葉類		160
		真正双子葉類		510
		その他		10



ギンラン



ジガバチソウ



ヒツボクロ



シラネアオイ



ホナガクマヤナギ

#### 【予測・評価の結果】

種名等	予測結果
改変区域内に生育する5種 ギンラン、ジガバチソウ、ヒツボクロ、 シラネアオイ、ホナガクマヤナギ	一部の生育環境の減少・消失はあるものの、事業の実施による地域個体群への影響は小さいと予測します。



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑫ 生態系

#### 【調査の結果】

項目	種名	調査結果
上位性	クマタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息密度が高く、対象事業実施区域周辺で繁殖している</li> <li>・好適採餌環境が対象事業実施区域周辺に分布している</li> </ul>
典型性	森林性鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林、林縁等の多様な環境に生息している</li> <li>・餌種・採食量も多く、他の動植物との相互連関の代表性がある</li> </ul>

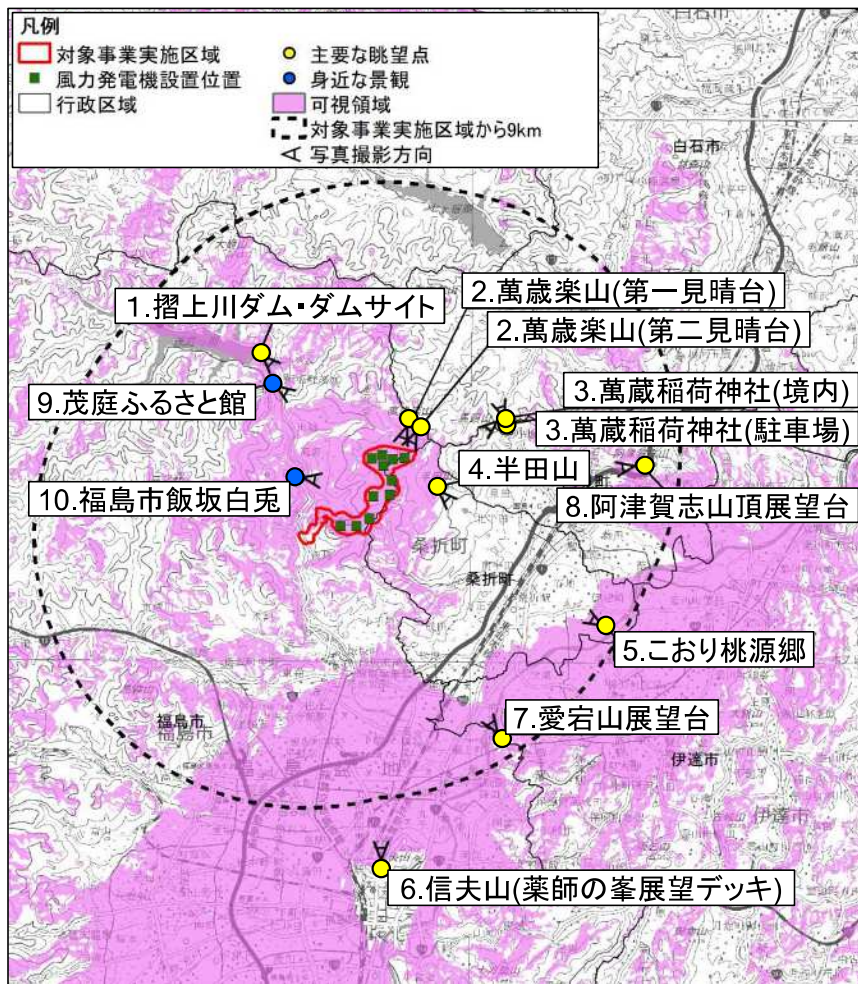
#### 【予測・評価の結果】

項目	種名	影響	影響が著しい場合の措置
上位性	クマタカ	風力発電機のブレードの回転による移動経路の阻害や衝突の影響は小さいと予測されたが、予測には不確実性が伴うため、事後調査が必要	必要に応じて適切な措置を講じる
典型性	森林性鳥類	好適生息環境の改変による影響は小さい	—



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑬ 景観



調査地点図及び写真撮影方向

#### 【予測・評価の結果】

予測地点		垂直見込角 (最大)	
主要な 眺望点	摺上川ダム・ダムサイト	1.4	
	萬歳楽山	第一見晴台	5.4
		第二見晴台	5.8
	萬蔵稻荷 神社	駐車場	不可視
		境内	不可視
	半田山	不可視	
	こおり桃源郷	不可視	
	信夫山 (薬師の峯展望デッキ)	0.7	
	愛宕山展望台	0.7	
	阿津賀志山山頂展望台	0.6	
身近な 景観	茂庭ふるさと館	0.9	
	福島市飯坂町茂庭白兔	2.2	

- ・ 風力発電の色は、景観馴染みやすいとされる明灰色とし、夜間は航空障害以外照明を用いない計画とすることにより、影響の低減に努めます。

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 摺上川ダム・ダムサイト(冬季)

【完成後】



↙ : 風力発電機  
© HSE Ltd.2022 All rights reserved.

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

---

### 萬歳樂山 第一見晴台(秋季)

【完成後】



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

---

### 萬歳樂山 第二見晴台(秋季)

【完成後】



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

---

### 萬蔵稻荷神社 駐車場(冬季)



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 萬蔵稻荷神社 境内(冬季)

【完成後】

地形等に遮蔽され、風力発電機は視認できない

風力発電機設置範囲



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

---

半田山(秋季):対象事業実施方向

風力発電機設置範囲

【完成後】



地形等に遮蔽され、風力発電機は視認できない



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

こおり桃源郷(冬季)

【完成後】

地形等に遮蔽され、風力発電機は視認できない

風力発電機設置範囲



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 信夫山 薬師の峯展望デッキ(冬季)



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 愛宕山展望台(冬季)

【完成後】



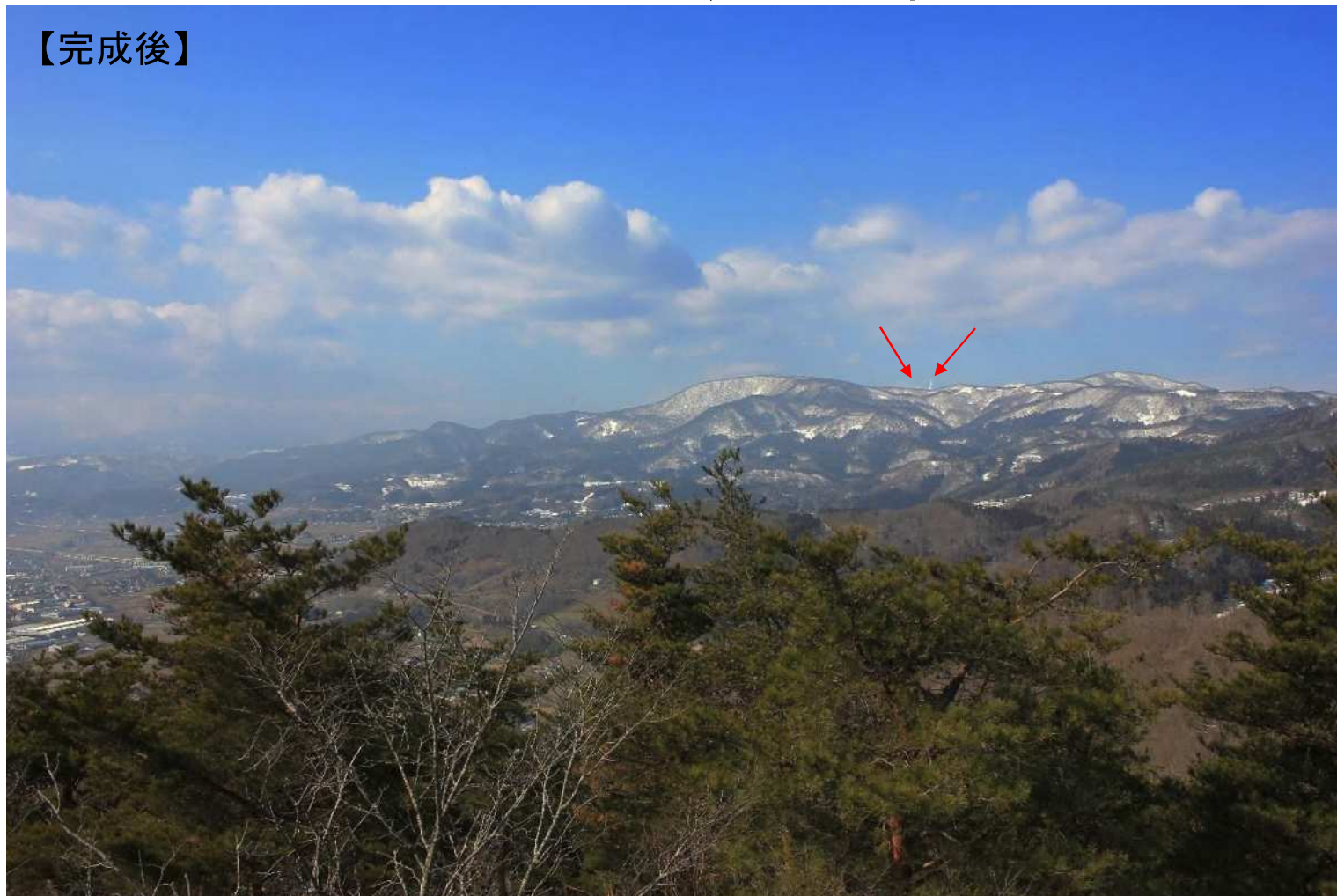
↙ : 風力発電機  
© HSE Ltd.2022 All rights reserved.

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

---

### 阿津賀志山山頂展望台(冬季)

【完成後】



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 茂庭ふるさと館(冬季)

【完成後】

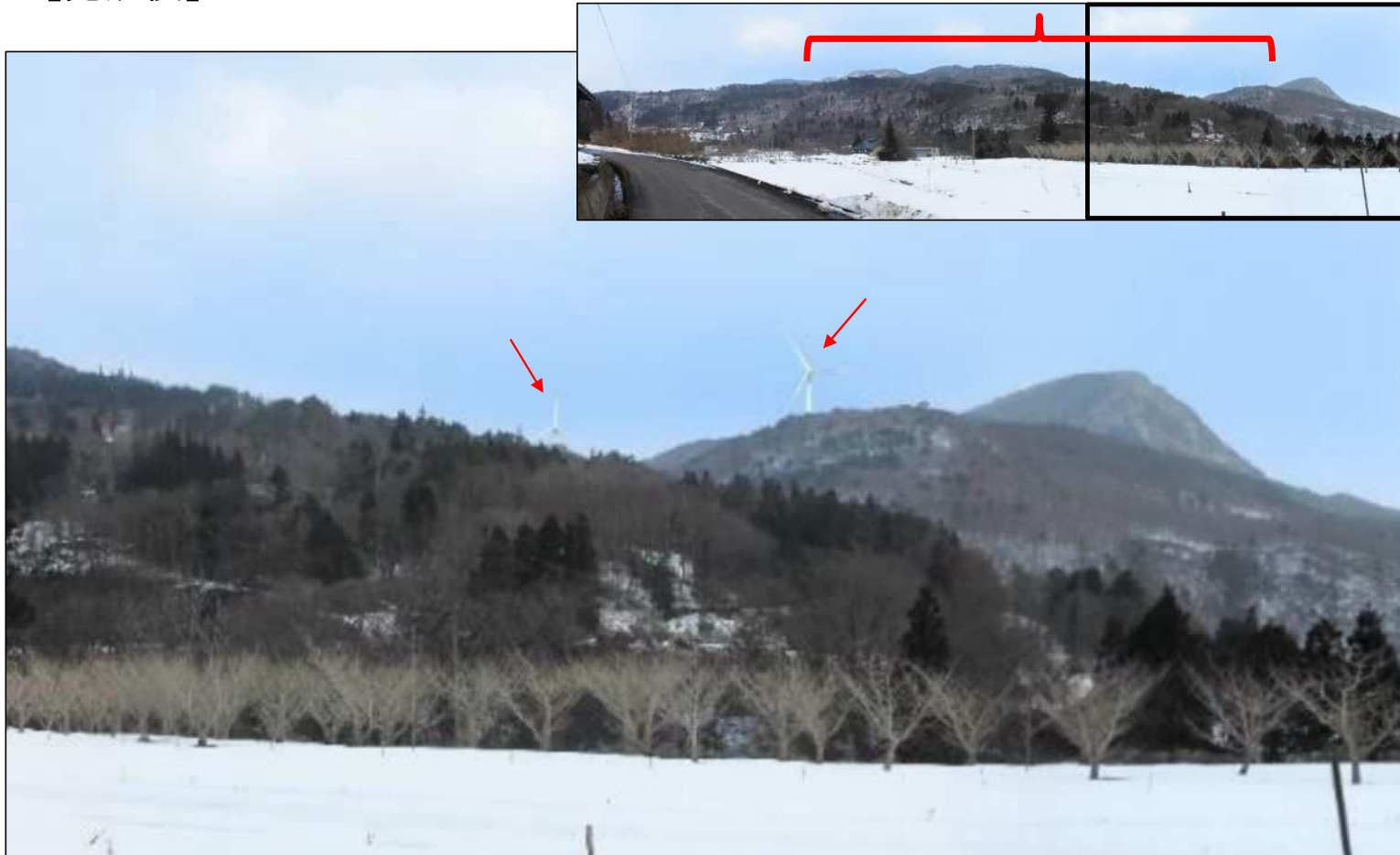


## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### 福島市飯坂町茂庭白兔(冬季)

【完成後】

風力発電機設置範囲

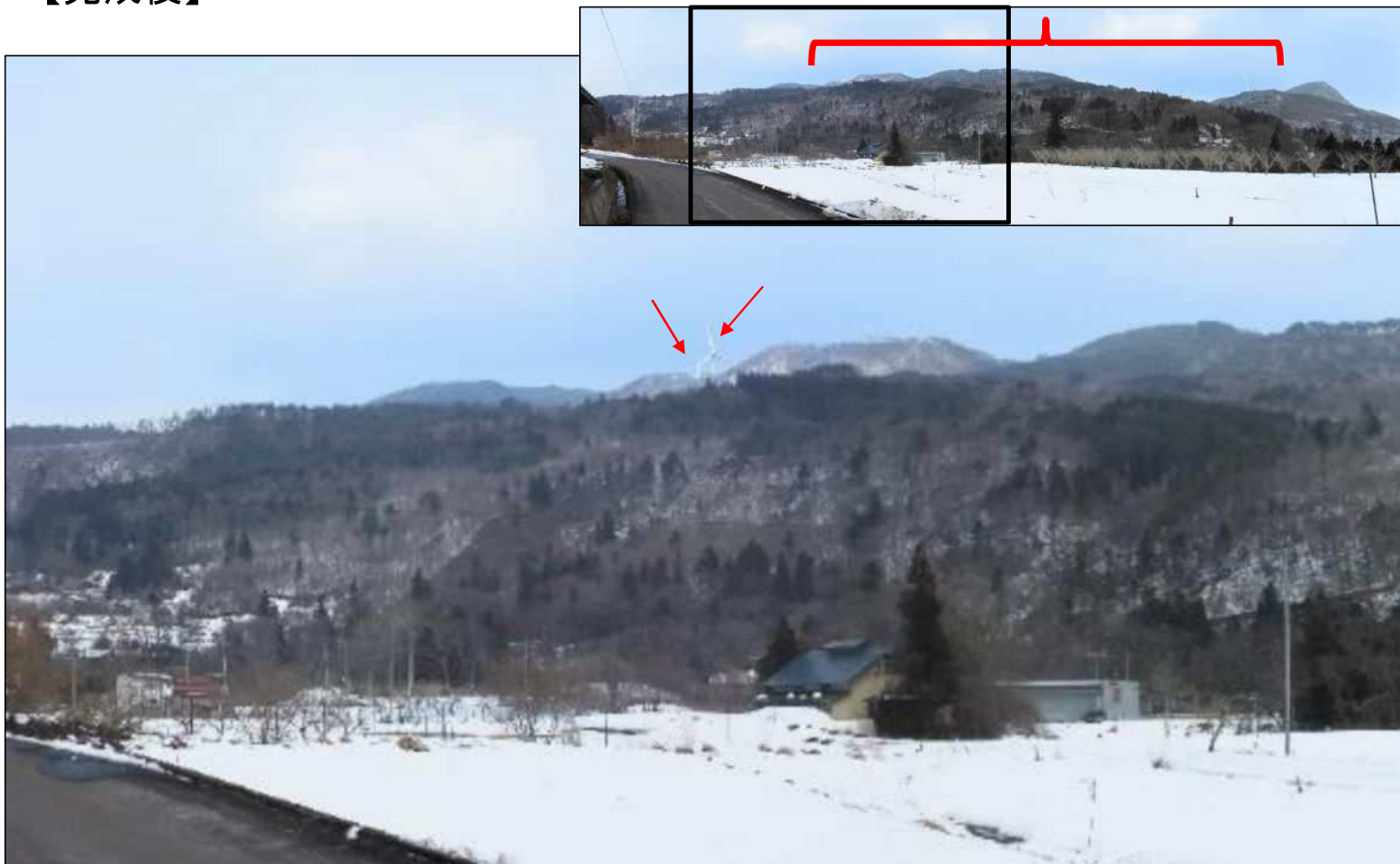


## 2.2 調査、予測及び評価の結果

福島市飯坂町茂庭白兔(冬季)

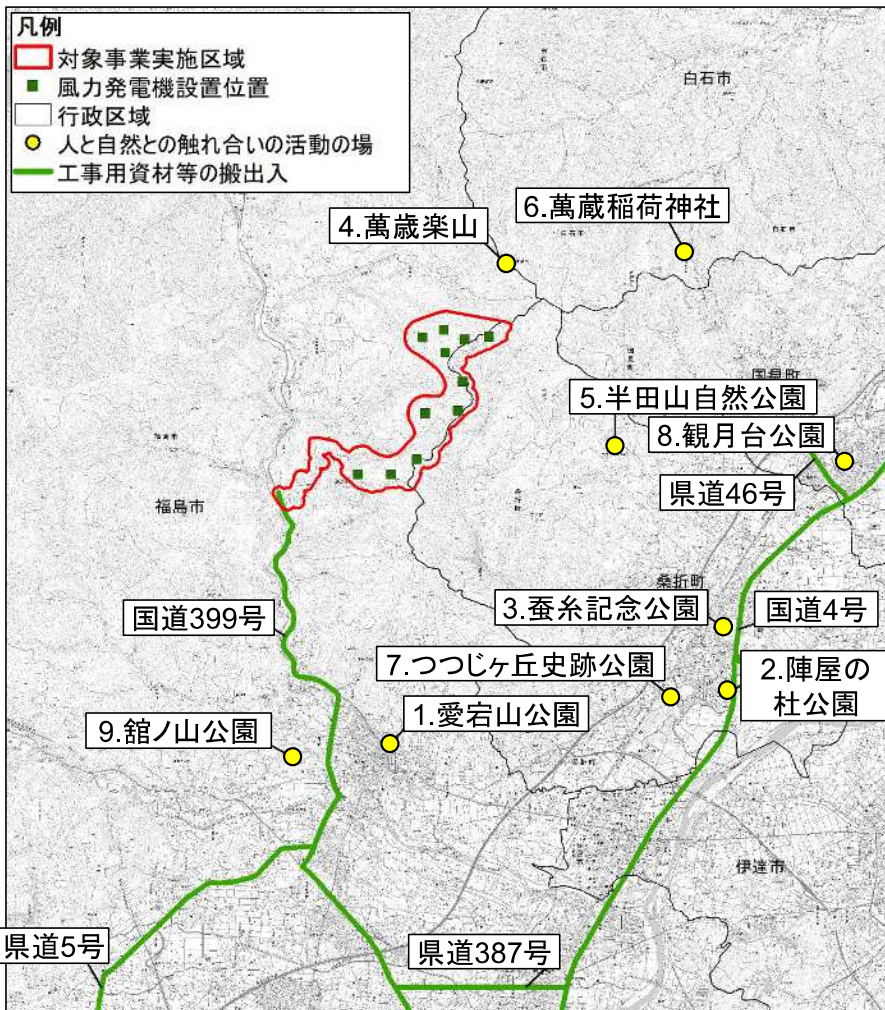
【完成後】

風力発電機設置範囲



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑭ 人と自然との触れ合いの活動の場



調査地点及び工事用資材等の搬出入経路

#### 【予測・評価の結果】

##### (地形改変及び施設の存在)

・改変が及ばないことから直接的な改変による影響はなく、また、静けさを楽しむ場所においても、静穏性は保たれると予測しました。

##### (工事用資材等の搬出入)

・工事期間中、日中の通行止めや迂回等を行わず、また工事関係車両台数を平準化するなど、アクセスルートへ配慮する計画です。



## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑮ 廃棄物等

#### 【予測・評価の結果】

- ・廃棄物：可能な限りリサイクルする計画です。
- ・残土：対象事業実施区域内で切土・盛土量を調整し、残土は発生しない計画です。

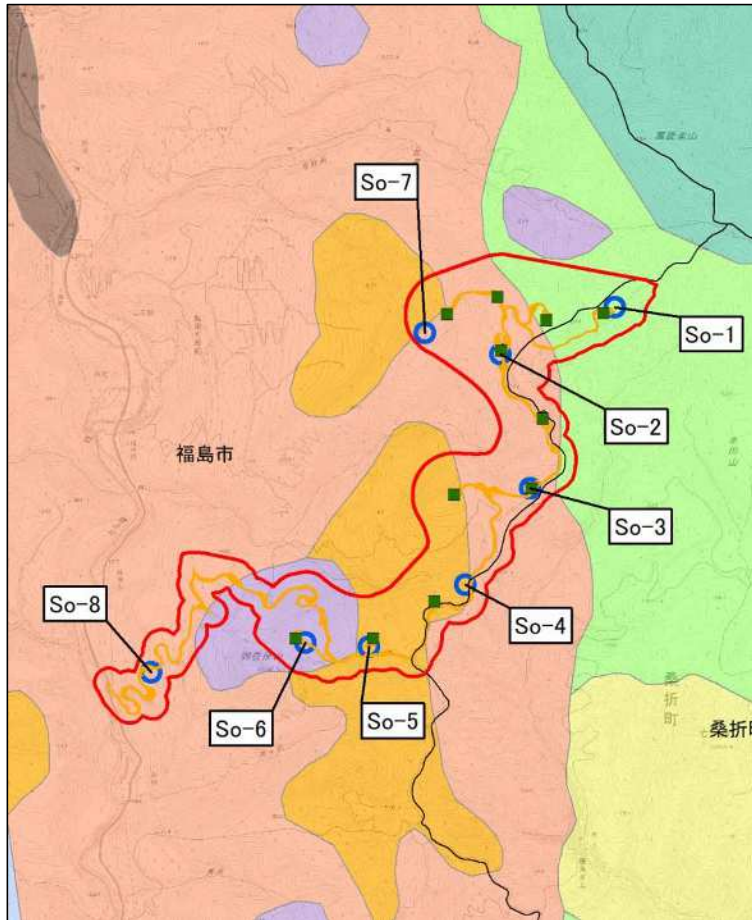
#### (産業廃棄物の種類及び処理方法)

廃棄物の種類	発生量(t)	有効利用量(t)	処分量(t)	処理方法等
伐採木	16,600	16,600	0	売却可能な幹は有用材として売却、枝葉根はチップ化して燃料として、リサイクル
木くず (型枠・丁張り残材)	48	48	0	燃料として、リサイクル
廃プラスチック類	15	15	0	分別回収し、リサイクル
金属くず	22	22	0	業者へ売却
紙くず (ダンボール等)	13	13	0	分別回収し、リサイクル
コンクリートくず	25	25	0	中間処理場にて破砕リサイクル

発生区域	計画切土(m <sup>3</sup> )	計画盛土量(m <sup>3</sup> )	処理方法
風力発電機組立ヤード	110,000	53,000	対象事業実施区域内で処理
工事用・管理用道路	218,000	275,000	
合計	328,000	328,000	

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑬ 放射線の量



放射性物質濃度(土壌)の調査地点

#### 【調査の結果】

##### ①空間線量率

対象事業実施区域内 69地点  
0.05～0.16 $\mu$ Sv/h

##### ②放射性物質濃度(水質)

周囲の河川4地点: 不検出

##### ③放射性物質濃度(土壌)

対象事業実施区域内の8地点

リター層: Cs-134 不検出～25 Bq/kg

Cs-137 47～280 Bq/kg

表層土壌: Cs-134 不検出～87 Bq/kg

Cs-137 140～2,400 Bq/kg

## 2.2 調査、予測及び評価の結果

### ⑯ 放射線の量

#### 【予測・評価の結果】

・工事用資材等の搬出入や造成等の施工に際して、以下の環境保全措置を適切に講じることにより、周辺住居等における放射線量の上昇は生じないものと予測します。

・伐採木については、放射性物質濃度を測定し、8,000Bq/kgを超えるものについては、指定廃棄物として申請した上で、必要期間、場内にて適切に管理する計画です。

#### 【環境保全措置】

環境保全措置	効果
タイヤに付着した放射性物質を含む土砂の飛散防止	放射性物質の飛散防止
造成箇所における土砂流出防止柵や沈砂池等の設置	
造成工事における濁水対策工の先行実施	
樹木伐採や土地改変の最小化	
切土・盛土の調整により、残土を発生させない 等	
工事中は定期的に会議等を行い、上記の環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底	環境保全措置の確実な実施